

# 13 土壌診断による「土づくり」のススメ

## 1 土づくりと土壌診断

良質な作物を安定的に収穫するために、農業者の方々は様々なことに取り組まれています。作物が良好に生育することを目的としたほ場の健全な「土づくり」は、営農を進める上で重要な取り組みの一つです。

土づくりとは、次の3つの要素を総合的に改善することです。

- ・物理性（土壌の透水性や硬度 など）
- ・化学性（pHや養分 など）
- ・生物性（土壌微生物等の生育状況 など）

これらの内、特に「化学性」は、物理性とは異なり目で確認することは困難であり、農業センターに持ち込まれる耕作土壌の分析値を見ますと、近年は養分のバランスが崩れているほ場が多く見受けられるのが実情です。

この「化学性」の改善の度合いを確かめる効果的な手段として、農業センターでは土壌分析による土壌診断推進事業を積極的に推進しております。

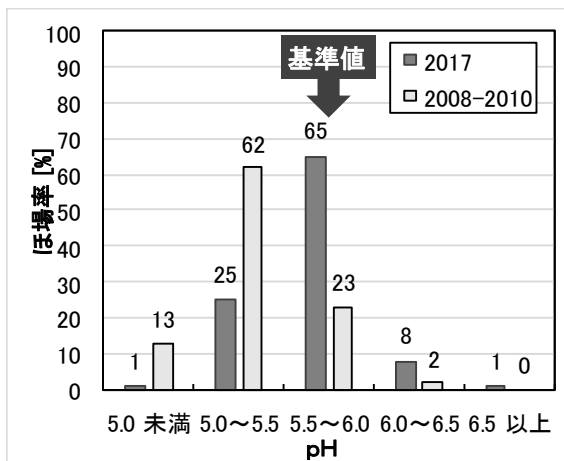
## 2 旭川市内ほ場における土壌の傾向

農業センターで過去に実施した土壌分析値の傾向をまとめました。

旭川市内の「水稲本田」及び「野菜」土壌について、特徴的な傾向を示した分析項目を選び、2017年度とその約10年前（2008～10年度）の分析値を、ほ場数の割合「ほ場率」により比較しました。

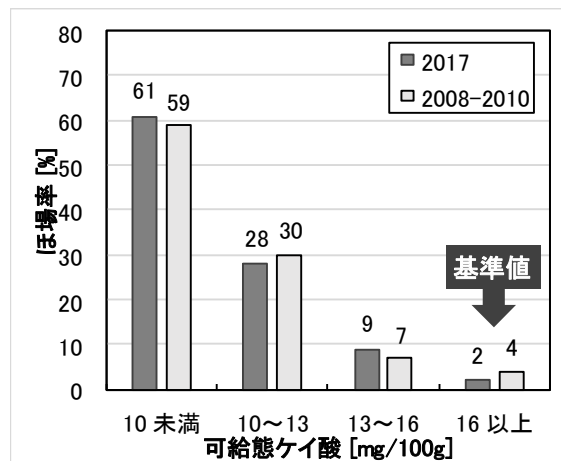
### (1) 水稲本田

#### ① pH（基準値：5.5～6.0）



- ・基準値内のほ場が65%を占めており、ケイ酸資材の連用によりアルカリ分が補給された結果であると推定されます。
- ・ただし、約4分の1のほ場では、依然として基準値を下回っています。

#### ② 可給態ケイ酸（基準値：16以上）

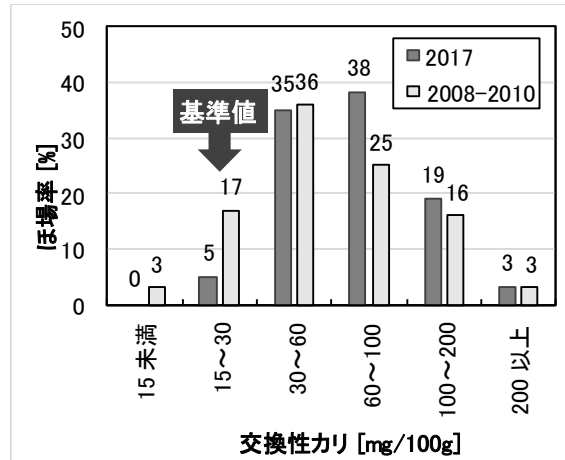
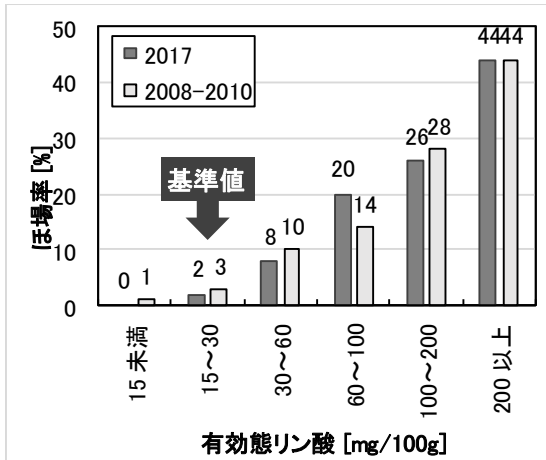


- ・水田土壌中のケイ酸は従来より不足が指摘されてきましたが、ここ10年間でほとんど変化は見られません。
- ・引き続き、土壌診断に基づく適量のケイ酸資材の施用が必要です。

## (2) 野菜

※ 野菜は品目により基準値が異なるため、代表的な範囲を掲載しました。

### ① 有効態リン酸（基準値：15～30） ② 交換性カリ（基準値：15～30）



- ・過去から現在に至るまで、ほとんどのほ場が大幅な過剰状態にあり、減肥又は無施肥の対応が望まれます。
- ・リン酸過剰は、作物によって土壤病害や要素欠乏症が発生することがあります。
- ・また、過剰状態のリン酸がほ場から流亡した場合、地下水や河川等の水質汚染の原因になるとされています。

- ・カリの蓄積度合いは10年前と比較して増大傾向にあり、原因としては、堆肥の連用やカリの過剰施用が推定されます。
- ・カリ過剰による石灰・苦土欠乏症に注意しつつ、「苦土・カリ比」や「石灰・苦土比」などの「塩基バランス」にも注意が必要です。

## 3 土壤診断手数料改定のお知らせ

旭川市役所と市の関連施設の各種使用料及び手数料につきましては、全庁的な見直しが決まり、令和2年4月1日以降は新たな料金が適用されることになりました。

日頃から農業者の皆様にご利用頂いております土壤診断手数料につきましても、下表のとおり増額となります。

手数料増額によりご不便をお掛けしますが、健全な土づくりと、肥料コストの見直しのために、今後も農業センターの土壤診断をご活用下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 土壤診断手数料の改定内容（令和2年4月1日～）

項目	現行料金	改定料金	(改定額)
一般分析	470円	700円	(+230円)
総合分析	780円	1,170円	(+390円)

なお、土壤診断は随時受け付けております。

施肥設計や作物の生育不良などの栽培に関するご相談にも応じておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。